



TITLE:

天界新知識

AUTHOR(S):

CITATION:

天界新知識. 天界 1936, 17(187): 28-29

ISSUE DATE:

1936-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167353>

RIGHT:



天 界 新 知 識

新知識各項に附けた番號は便宜上のもので分類に關係はない。各人の分類整理に應用されたい。

563

彗星の光輝觀測の新法

一般に彗星や星霧の如き、形が大きくボンヤリした天體の明るさの測定は非常にむづかしいものであつて、其の困難の原因は主に下の三つとされてゐる。

- 1) 使用される望遠鏡の型及び口径 (M. Beyer 氏の研究あり。A. N. 250, 233).
- 2) 觀測地の地理的及び氣象的事情(都市との遠近, 山か野か, 海への遠近等々)及び空氣の良否.
- 3) 觀測者の生理條件——之れは從來餘り重要視されてゐない。〔山本一清博士, 日本學術協會報告第4卷〕

澳國の W. E. Bernheimer 氏は恒星と彗星とを比較する場合に成るべく倍率の小さなものを用ゐるやう [A. N. 248, 195] すゝめてゐるが、之れも實際は中々行はれにくいことである。第2の方法は焦點外の恒星像と彗星とを比較することで、アマチュアたちも多く實行してゐる。上記 Beyer 氏は接眼鏡を焦點から引き出して、彗星や比較星の像が消えるやうにすることをすゝめてゐるが、之れも空氣の良否に影響されることが多い。又、彗星や比較星の色も考慮しなければならない。獨逸の W. W. Spangenberg 氏は一新方法として、接眼鏡の視野中に(焦點外の位置に)1枚のガラスを置き、其の半ばをスリガラスとして不透明にして置き、比較星は此の半透明の部分を通して見ることを提議してゐる。尤も此の半透明板により光が可なり吸収されるが、しかし之れは其の光の損失量を測つて置けば好い。〔AN. 6171〕

564

新しい小遊星の命名

R. I. 1442 によれば、下記の通り4個の小遊星が新しく名を與へられた。

(1336)	Leelandia
(1337)	Gerarda
(1342)	Brabantia
(1353)	Maartje

之れ等は皆 H. v. Gent 氏が發見し、G. Pels 氏が軌道を計算したものである。

565

喪失した小遊星 “Gryphia” の再發見

第496號の小遊星 “Gryphia” は1902年に發見されて以來(天文年鑑1936年度參照)全

く行方不明となつたまゝ學界の疑問であつたが、去る本年3月に 1936 CB として發見された新遊星が軌道の研究の結果、此の喪失星であることが判明した。〔R. I. 1437〕

566

分光連星の第4目録が出版された

米國タリ天文臺の W. W. Campbell, J. H. Moore 兩氏は今までに分光連星の總目録を3回まで出版したことがあるが(何れもリク天文臺プレテンに)、最近、又、モア氏はリクのプレテン第483號に第4目録を發表した。之れは1936年1月1日現在の星を全部網羅したもので、

第Ⅰ表には分光連星軌道の知れてあるもの375個を含み、此のうち、其のうち、第Ⅰ a 表には食變星として要素の完全に知れてゐるもの55個。

第Ⅱ表には、軌道運動以外の理由で、視線速度の變化するもの44個。

第Ⅲ表には視線速度の變化する星のうち、上記の2表中に含み得ない未確定のもの。上の三つの表の中に含まれる星の總數は1420個である。

第Ⅰ表にある分光連星375ケのうち、多分365ケまでは眞正な分光連星であり、其のうち55ケは食變星、4ケは橢圓體變星、12ケは眼視的二重星、87ケは兩星のスペクトルが見えてゐる。従つて、158ケは連星たることに疑はない。

567

新小遊星16個の登録

ドイツの計算局は下記の新小遊星に確定的な番號を與へた。

番號	假符號	發見者	軌道計算者	他と同定	其後の觀測年
1365	1928 RK	M. Wolf	廣 瀬 秀 雄	1932 WL	—
1366	1932 WA	E. Delporte	A. Kahrstedt	1935 IM=1935 GM	—
1367	1934 NA	C. Jackson	”	—	1935
1368	1935 HD	”	C. Jackson	1928 SN	—
1369	1935 QB	P. Schajn	A. Kahrstedt	1928 FE	—
1370	1935 QG	K. Reinmuth	W. Höppner u. W. Fricke	—	—
1371	1935 QI	”	A. Kahrstedt	1933 FD ₁	—
1372	1935 QK	”	”	1928 DX	—
1373	1935 QN	E. Hubble	P. Herget	—	—
1374	1935 UA	E. Delporte	J. Gillert	—	—
1375	1935 UB	”	A. Kahrstedt	1933 FC	—
1376	1935 UH	G. Reiss	G. Reiss	—	—
1377	1936 CD	L. Boyer	L. Boyer	—	—
1378	1936 DB	F. Rigaux	A. Kahrstedt	1915 KW	—
1379	1936 FC	G. Neujmin	”	—	—
1380	1936 FM	L. Boyer	L. Boyer	—	—

之れにより、小遊星の總數は今や1380個となつたわけである。〔R. I. 1438〕